

広島大学における 博士論文研究基礎力審査(QE)の運用状況

平成23年度採択 「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」
平成25年度採択 「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」

平成30年7月3日



広島大学 理事・副学長(教育・東千田担当)

宮谷 真人

広島大学大学院における 博士論文研究基礎力審査(QE)の定義

(博士論文研究基礎力審査)

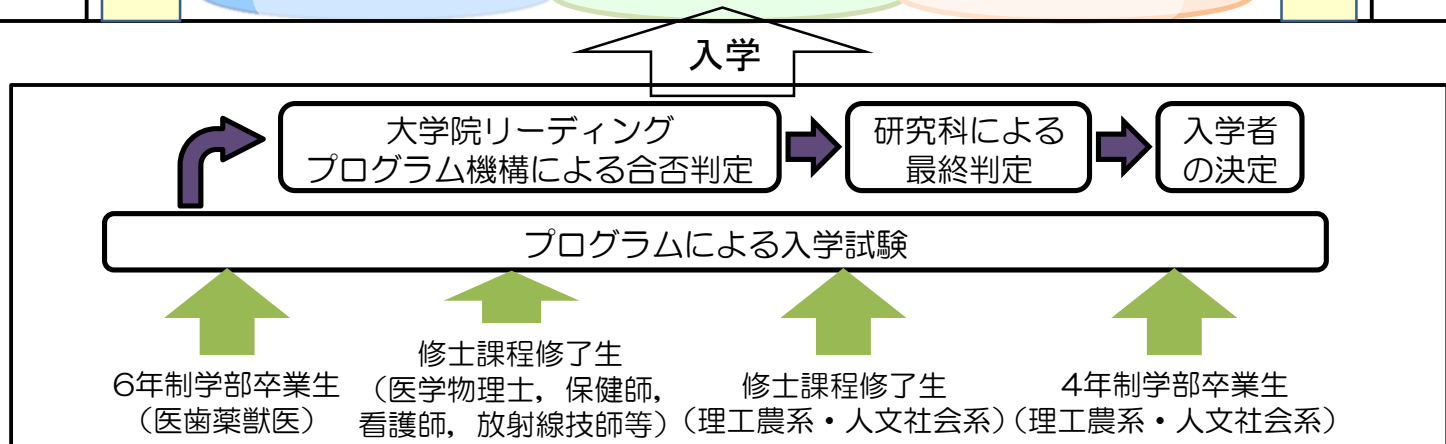
- 第9条 博士課程リーダー育成プログラムを履修する学生(第4条第2項に規定する標準履修年限で履修する者を除く。)に対しては、2年次終了時(標準履修年限が4年のプログラムを履修する者にあつては、当該プログラムのプログラム会議が指定する時期)に大学院規則第43条第3項に規定する試験及び審査(以下「博士論文研究基礎力審査(Qualifying Examination)」という。)を行い、引き続き博士課程リーダー育成プログラムの課程を履修させるかどうかの可否を決定する。
- 2 博士論文研究基礎力審査(Qualifying Examination)に合格した者には、所属研究科の定めるところにより修士の学位を授与することができる。
 - 3 標準履修年限が5年のプログラムを履修する学生は、第1項の規定により引き続き博士課程リーダー育成プログラムの課程の履修を認められたときは、当該学生が所属する研究科の博士課程後期の教育課程を履修するものとする。

広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラム規則より抜粋



QEの合格により、「修士号の授与」と「博士課程後期進学の許可」を行う

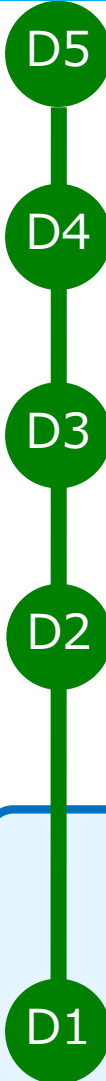
フェニックスプログラムにおける 博士論文研究基礎力審査(QE)



たおやかプログラムにおける 博士論文研究基礎力審査(QE)

オンサイト教育

オンキャンパス教育



QE3
学位審査

博士學位論文

QE2
博士候補者
試験

国際ワークショップ

3コース合同学生チームによる
オンサイト・チームプロジェクト

QE1
博士論文
研究基礎
力審査

オンサイト・リサーチプロポーザル

10名程度のグループによる オンサイト研修

オンサイト・コースローテーション

リバーシノベーション専門科目

専門科目 専門科目 専門科目

平和共生基礎科目

文化創生コース 技術創生コース 社会実装コース

インターンシップ

リバーシノベーション実践科目

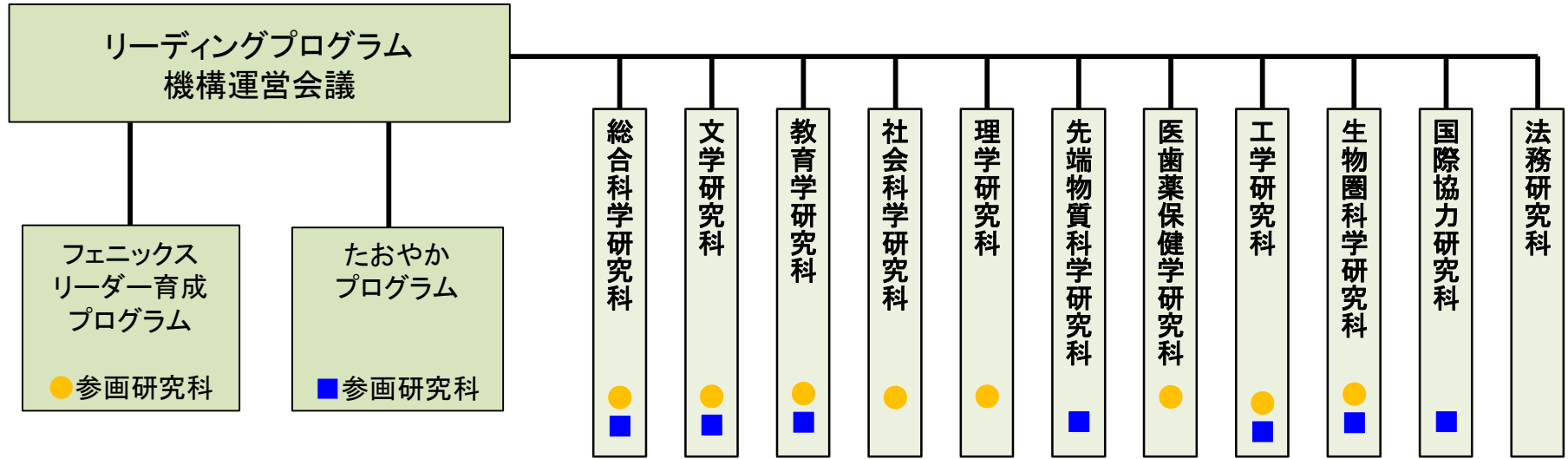
現場で力をつける

異分野の視点・
基礎力を養う

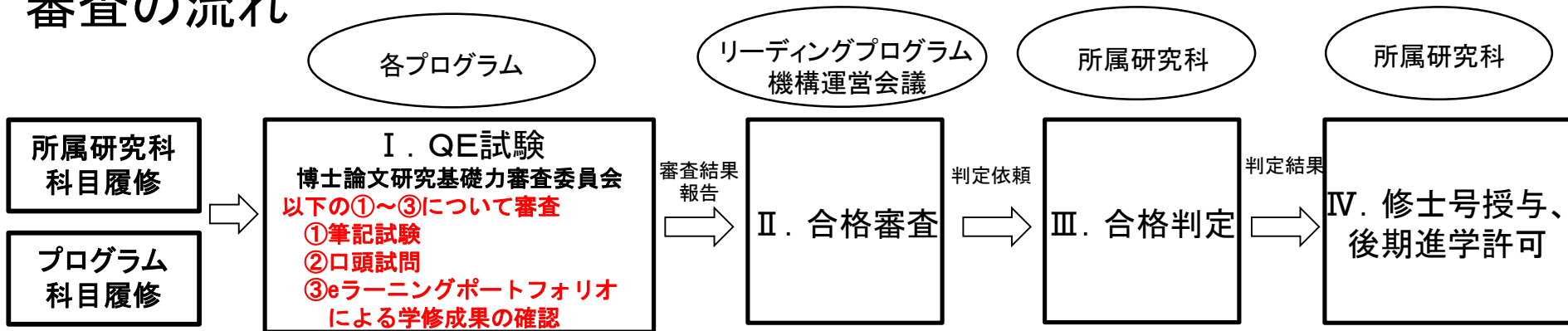
審査体制・審査の流れ

審査体制

プログラム・大学院リーディングプログラム機構運営会議・研究科が連携した審査体制



審査の流れ



(参考)たおやかプログラムの3年次編入試験では、QE試験に相当する内容により、オンサイト・イノベーションの実践に必要な専門知識、修士論文、オンサイト・リサーチプロポーザル及びプログラムへの意欲と適合性を評価している。

実施内容：①筆記試験

①筆記試験

- ・所属する研究科の学修内容を問う筆記試験・・・専門能力の審査
- ・プログラムにおける学修内容を問う筆記試験・・・汎用力の審査
 - 学術基盤の修学状況を確認。
- ・英語で作成した研究計画書等の報告書の審査
 - 研究の基礎力や研究計画内容及び語学力の審査。

たおやかプログラムにおける筆記試験の構成

- 多文化共生実践科目 : 多文化共生課題に関する設問(90分)
リバースイノベーション専門科目 : 主任指導教員が指定する1科目から出題(90分)

多文化共生実践科目の出題例

Question 1

1-(1) Define the 6th industry in Japan. Then explain why the 6th industry is important in disadvantaged areas and what kind of results can we expect from the 6th industry.

1-(2) What kinds of the roles of the 6th industry play in the development of disadvantaged areas, in general? Based on the characteristics of the 6th industry, it can be classified into two types: Business oriented type and Community oriented type. In this regard, further explain the roles of the 6th industry in the case of Fukutomi town.

1-(3) Explain what kinds of factors are important for the development of disadvantaged area through the implementation of the 6th industry. Write at least 3 factors and explain the reasons.

Question 2

2-(1) When introducing the solar power station, what are the benefits to and impacts on community of Kodani in Higashi Hiroshima?

2-(2) What are the advantages and disadvantages of both national generation and distributed generation?

実施内容：②口頭試問

②口頭試問

- ・学生が研究を遂行する為の基礎的な能力を有しているか、また、博士論文研究の計画内容が適切に計画されているかについて、口頭での審査を英語で行う。

たおやかプログラム QE1 オンサイト・リサーチプロポーザル 評価表

受験番号	D	総合判定	評価点平均値	3.75	点	評価(○を記入)	秀	優	良	可	不可
審査委員名		○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○			
評定項目 (着眼点)	専門知識	これまでに身につけてきた個別専門知識の質、関連性及び学際融合的な研究をするためのアイデア(計画)や心構え(準備)の質、関連性	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○			
	研究力	専門研究に関し、進捗度、理解度、独創性などの点で研究を主体的に遂行する知識と能力	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○			
	オンサイト・リサーチプロポーザル(博士論文研究計画書及び及びオンサイトチームプロジェクト・プロポーザル)	たおやかな社会に向けて解決しようとする条件不利地域の問題とその方法に関するアイデア(計画)や心構え(準備)の質、関連性	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○			
	プログラムへの意欲と適合性	たおやかな社会に向けて必要となるリーダーシップ、コミュニケーション能力及び総合能力を有しているか	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○			
総合判定	極めて優れたものとして評価できる 優れたものとして評価できる 基準を満たしているとして評価できる 基準を満たしているとして評価するには躊躇する 到底評価できない	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○	5 4 3 2 1 ○			
特記事項											

(注)【オンサイト・リサーチプロポーザル】(たおやかプログラム)

(1) 博士論文研究計画書(1,000ワード程度(図表除く))

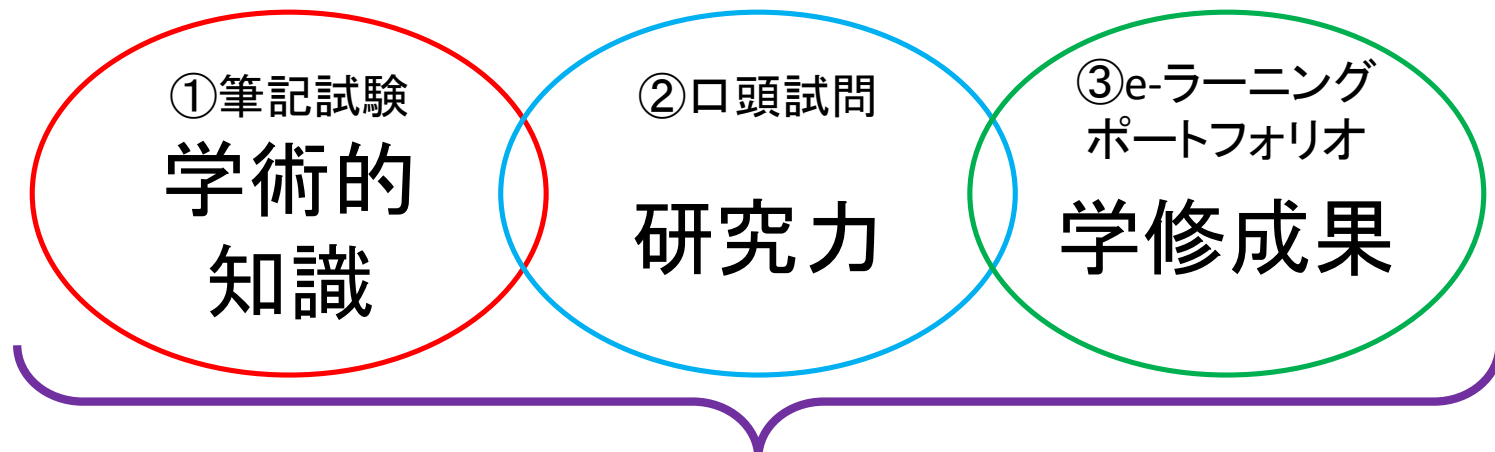
(2) オンサイトチームプロジェクト・プロポーザル(1,000ワード程度(図表除く))

実施内容：③e-ラーニングポートフォリオによる 学修成果の確認

③e-ラーニングポートフォリオによる学修成果の確認

- ・日々の学修の成果物や学生の活動などについて確認。
- ・カリキュラムマップにおいて各授業科目において学ぶべき目標に関する段階的な到達度（ルーブリック）について、自己評価を行い、指導教員陣の評価を受ける。

3つの評価軸による多角的なQE審査



これらの3項目の審査項目について総合的に評価
合格者には**修士号を授与**（4年制医歯薬学系を除く）、**後期進学許可**

実施内容：③eラーニングポートフォリオによる 学修成果の確認

たおやかプログラム QE1 ラーニングポートフォリオ 審査報告書

受験番号	学生氏名
審査委員会委員長	

学習目標に対する到達度自己評価の所見

学修目標	基礎到達目標	所見
自主性： 与えられたフィールド・デマンドに単にソリューションを提供するだけでなく、地域社会において文化や技術が双方向に高め合う新たなたおやかな共生社会の枠組みを自ら提案し、創生する能力	探求する意欲：知的好奇心を持って、オンキャンパスの知識だけでなく、オンサイトの知識を積極的に取り入れている	
	倫理：平和を希求する精神を持って、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解する	
	発信力：地域課題に応じた解決策の提案を効果的に伝える	
実行力： 異なるバックグラウンドを持つ集団組織の中で解決策を実行する具体的計画を企画立案し、代替案を客観的に分析・評価し、他者と交渉し、チームを統括し、倫理観を持って成し遂げる能力	課題発見：地域の解決すべき課題を見つけている	
	計画実行：目的と目標を設定し、計画に従って確実に実行する	
	検証：研究・活動の結果について、点検と評価を正しく実施し、次期計画へ反映する	
多角的思考力： 人文社会分野と科学技術分野の学識に基づき、地域が抱える具体的課題からフィールド・デマンドを俯瞰し、多様な視点・アプローチから実行可能な解決策を柔軟かつ迅速に見出す能力	傾聴力：他人の意見を聞き、正しく理解し、尊重する	
	地域文化理解：異なる文化・習慣・価値観等を理解している	
	分野融合：異なる学問分野の理解を理解している	
	論理展開：論理的に自分の意見や手順を展開できている	
創造力： 条件不利地域の制約条件のもとで、分野融合の知識を総動員して、フィールド・デマンドに適応した科学技術やそれを支える政策・制度を開発し、新たな地域文化の創生を誘う能力	協働：お互いの考えを尊重し、信頼関係を深める	
	共創力：異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームにより、相乗効果を生み出している	
	発想力：多文化共生に貢献する新しい発想を生み出す	
専門性	情報収集力：信頼性が高い、必要な情報を入手している	
	学習：多様な学問分野の知識や技術を深く習得している	

到達度のエビデンスに基づく成果水準の所見

項目	所見
単位修得状況	
オンサイト研修報告書	
課題研究報告書	

ラーニングポートフォリオ評価

評価 (○を記入)	評価指標
秀	目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめている。
優	目標を十分に達成している。
良	目標を達成している。
可	目標を最低限度達成している。
不可	目標を達成していない。

教育の質保証

カリキュラムマップ

- ・各授業科目で修得することが出来る目標 (学修目標)を可視化した一覧

ルーブリック

- ・各学修目標の段階的な到達度を可視化した一覧

別表(第2項関係) ※QE1 到達基準を黄色, QE2 到達基準を緑色, QE3 到達基準を赤色の網掛けで示す

区分	授業科目名	要修得単位数		単位	配当年次	学修目標と単位数の割合						
		必修	選択必修			自主性	実行力	多角的思考力	創造力	専門性		
平和共生基礎科目	平和と安全			2				1	1			
	恒久的平和と文化			2				1	1			
	平和学			4				2	2			
	平和社会のための教育			2				1	1			
	法と人権			2				1	1			
	リーダーシップ手法			2				1	1			
	プロフェッショナル倫理			2				1	1			
	アジア文化特論			2				1	1			
	経済開発政策特論			2				1	1			
	能力開発特論			2	1~2	1	1					
	リサーチメソッド			2		1	1					
	プレ・アカデミック・イングリッシュII			2			2					
	アドバンスト・イングリッシュI			2			2					
	サイエンティフィック・イングリッシュ			2			2					
	イングリッシュ・コミュニケーション			2			2					
イングリッシュ・レトリック			2			2						
イングリッシュ・プレゼンテーション			2			2						
総合日本語初級I			2			2						
総合日本語初級II			2			2						
実践科目	オンサイト・コースローテーション	2		2	1	0.5	0.5	1				
	インターンシップ	2		2	1~5	1		1				
	オンサイト研修	2		2	1~2		1	0.5		0.5		
	オンサイト・チームプロジェクト	3		3	3~4	0.5	1	0.5	0.5	0.5		
	ワークショップ実習	1		1	5	0.5	0.5					
条件不利地域の地理学				2	1~2						2	
	現代インド地誌学			2							2	

学修目標	基礎到達目標	成果水準0	成果水準1	成果水準2	成果水準3	成果水準4	成果水準5
自主性	探求する意欲：知的好奇心を持って、オンキャンパスの知識だけでなく、オンサイトの知識を積極的に取り入れている	知識の獲得に興味がない	自分の学問分野の知識を取り入れている	自分の学問分野に関わらず、新たな知識を取り入れている	知的好奇心を持って、自分の学問分野に関わらず、幅広く新たな知識を取り入れている	知的好奇心を持って、自分の学問分野に関わらず、幅広く新たな知識やオンサイトの知識を取り入れている	知的好奇心を持って、自分の学問分野に関わらず、幅広く新たな知識やオンサイトの知識をもって、地域の課題解決に取り組んでいる
与えられたフィールド・デマンドに単にソリューションを提供するだけでなく、地域社会において文化や技術が双方に高め合う新たなおやかな共生社会の枠組みを自ら提案し、創生する能力	倫理：平和を希求する精神を持って、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果を意識している	研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していない	研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解している	研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解している	平和を希求する精神をもって、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解している	平和を希求する精神をもって、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解し、地域社会に貢献している	平和を希求する精神をもって、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解し、平和共生社会の創成に貢献している
発信力：地域課題に応じた解決策の提案を効果的に伝える	提案を説明することができない	提案を説明しようとしている	提案を説明できている	提案・自分の意見をわかりやすく説明している	提案・自分の意見をわかりやすく説明し、自分と異なる意見を持つ相手からも十分な理解を得ている	提案・自分の意見をわかりやすく説明し、自分と異なる意見を持つ相手からも十分な理解を得ている	提案・自分の意見をわかりやすく説明し、自分と異なる意見を持つ相手からも十分な理解を得ている
実行力	課題発見：地域の解決すべき課題を見つけている	提示された課題を正しく理解できない	提示された課題を正しく理解できている	地域の現状と目標の乖離を把握している	地域の現状と目標の乖離を把握し、その問題点を特定している	地域の現状と目標の乖離を把握し、その問題点を特定し、解決策を提案している	複数の地域の解決すべき課題を比較し、その解決策を提案している

学生及び教職員が学修目標及び到達度を明確に理解・共有できる仕組みを構築し運用することにより、共通の認識の下、学修を進めることが出来る

QE不合格時の取扱い

QE不合格時には1回に限り 1年以内に再審査を受けることが出来る様に定めている。

○広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査
(Qualifying Examination 1) における不合格及び再審査の取扱い

平成 27 年 6 月 17 日

たおやかで平和な共生社会創生プログラム会議承認

広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム博士論文研究基礎力審査
(Qualifying Examination 1) における不合格及び再審査の取扱い
(趣旨)

第 1 この取扱いは、広島大学大学院博士課程たおやかで平和な共生社会創生プログラム履修細則(平成 26 年 2 月 14 日たおやかプログラム会議承認)第 13 条の規定に基づき、たおやかで平和な共生社会創生プログラム (以下「たおやかプログラム」という。)の博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination 1) (以下「QE1」という。)における不合格及び再審査の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(不合格及び再審査の取扱い)

第 2 たおやかプログラムの履修学生は、QE1 に不合格となったときは、1 回に限り、QE1 の再審査(以下「再審査」という。)を受けることができるものとする。

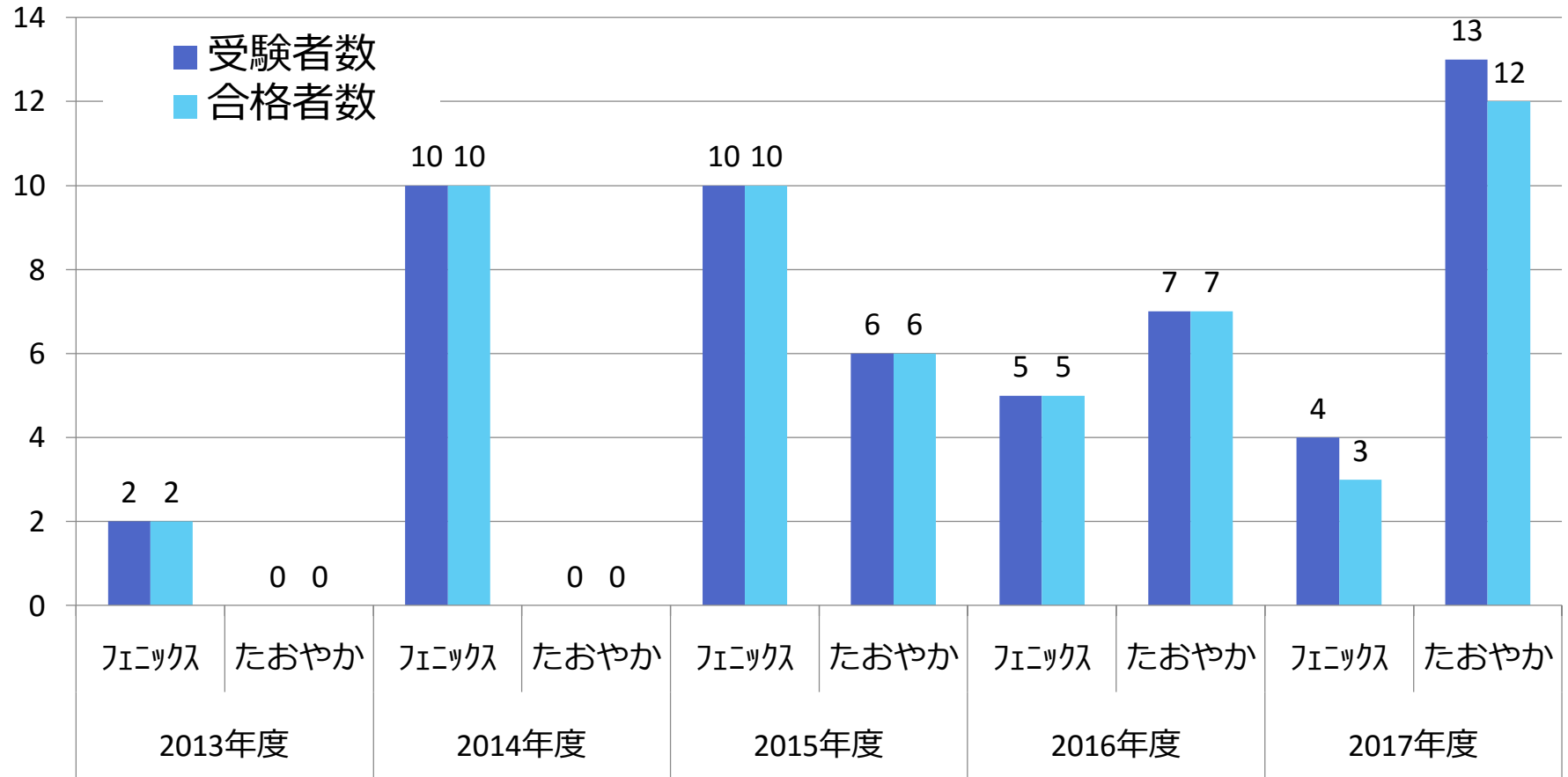
2 再審査は、半年後に実施するものとする。ただし、特別の事情があるとたおやかプログラム会議が判断するときは、1 年後に実施することができる。

3 再審査の手續等は、たおやかプログラム博士論文研究基礎力審査実施要領(平成 26 年 6 月 12 日たおやかプログラム会議承認)に準じて行うものとする。

(再審査における不合格の取扱い)

第 3 たおやかプログラムの履修学生は、再審査に不合格となったときは、たおやかプログラムから離脱するものとする。

QE実施状況



◆不合格者2名(2018年6月現在)のうち、フェニックスプログラム1名は、再審査を受験する準備を進めている。
たおやかプログラム1名は、研究科の学生として修士論文審査による修士号取得を目指している。

(参考)プログラム途中離脱者数

フェニックスプログラム : 2017年度受験対象者1名

たおやかプログラム : 2016年度受験対象者2名, 2017年度受験対象者1名

QEにおける効果と課題

* 効果

- ・QEの審査委員として、受験生の専門分野外の教員や外部の審査委員を充てることで、多角的な審査体系を確立し、教育の質保証に繋がっている。
- ・カリキュラムマップ、ルーブリックを設定することで、客観的かつ明確な基準を可視化することができている。

* 課題

- ・修士論文を課さないことによる論文作成能力の不足
→現状の対策：主任指導教員の判断により、修士論文相当の執筆を追加
- ・進路変更により、博士課程前期修了後に就職を希望する学生に対する対応
→現状の対策：QEと修士論文審査のいずれかを選択
- ・筆記試験の問題作成及び問題確認に時間と労力がかかる
- ・口頭試問審査委員の日程調整が困難